

## 令和5年度第3回学校運営協議会 議事まとめ

熊谷市立三尻中学校

- 日時 令和6年1月31日（水）13時40分から16時00分まで
- 会場 三尻中学校図書室
- 出席者
  - （委員） 阪本真由美委員（本校PTA会長）      田沼亮介委員（学区内小学校PTA）
  - 柳澤一正委員（三尻連合自治会長）      藤野和夫委員（籠原連合自治会長）
  - 茂木典夫委員（学区内青少年健全育成会）      板垣洋子委員（保護司）
  - 茂木照司委員（学識経験者）
  - （職員） 田沼良宣（校長）      新井美保子（教頭）      松浦達也（主幹教諭）

### 3 協議

#### （1）今年度の取組

##### ① 学校研究課題

資料 「埼玉新聞 記事」「令和5年度三尻中学校 研究紀要」

##### ② 校則改定（制服検討）

資料 「校則改定に向けた今後の動き」「制服改定スケジュール」

- ・ 読売新聞1月30日（火）投書欄「気流」で「校則 どうあるべきか」という投書が紹介されていた。投書に見る学生の考えは三者三様で、それぞれよく考えているのが伺えた。三尻中学校の生徒も、「校則は今の自分たちの生活をより良くするためのもの」と捉え、職員・生徒一丸となって校則改定を進めてほしい。

#### （2）学校評価（外部評価）

資料 「令和5年度後期学校評価集計（保護者・生徒・職員）」

- ・ 保護者と生徒の評価を比較すると、生徒は「達成できている」を選ぶ傾向にあるが、保護者の「達成できている」は少なく、「現状でよい」の割合が全体的に多い。来年度に向けて、保護者が「現状でよい」ではなく、「達成できている」を選ぶような教育活動を推進してほしい。
- ・ 【（生徒評価）9. 三尻中には、困った時に相談できる先生がいる。】が79.2%と高い評価でとてもよい結果である。中学生という多感な時期は、孤立しがちにあるが、先生との関係が築かれていれば、保護者にも言えない悩みを伝えることができる。それが今回の評価にあらわれている。今後も生徒との信頼関係を築いてほしい。
- ・ 三尻中生の登校時の挨拶が、とても良くなってきている。ぜひ指導を続けてほしい。挨拶という基本的な生活習慣は、社会に出た際の様々な場面で役立つものなので、大切にしてもらいたい。

- ・学校評価の設問について、保護者・生徒・教員の共通のものを設定してはどうか。例えば、「学びボード」についての設問が保護者のものにはない。それぞれの視点からの評価を分析することで、よりよい教材となるだろう。
- ・本資料の（保護者評価）は信頼できるものである。中学生にもなると自分の外面を良く見せようとする傾向にあり、それがあらわれているのが、【（生徒評価）12. ロッカーや机の中などを進んで整頓している。〈場〉】「達成できている」58.8%に対する、【（保護者評価）7. お子さんは、身の回りの整理整頓を心がけていると思う。〈場〉】「達成できている」16.5%である。保護者は子どもの様子をよく見ており、体裁を整えるのではなく、正當に評価していることが伺える。
- ・社会全体を見ると自己肯定感が低く、自身の評価を低く考える中学生がいるのも事実だろう。しかし、その一方で、三尻中学校の生徒は、自己をよく見つめ、自身を適切に評価することができている。その一端が、授業や登下校の様子だ。登下校時の挨拶であったり、授業に参加する態度であったりと、安定した学校生活を送っているのがよく分かる。それは、生徒一人一人の自己有用感が学校・地域・家庭で醸成されているからだ。

### （3）来年度の学校経営方針（案）について

資料 「令和6年度熊谷市立三尻中学校 学校経営方針（骨子）」

- ・KGノート（家庭学習ノート）の廃止に伴い、生徒の机に向かう習慣は薄れたという意見もあるだろうが、そういった意見を踏まえて、さらにより取組を企画・立案してほしい。
- ・不登校生徒と他の生徒とのつながりを大切にしてほしい。生徒が互いを支え合える関係を教室で作ってほしい。
- ・「タブレットの文房具化」の一環に、不登校生徒の学習にタブレットを活用するという観点を取り入れてほしい。（様々な理由で）教室に通えないけれど、学習はしたいという考えの生徒もいる。個別最適な学習を生徒に提供してほしい。
- ・不登校生徒への対応に重点を置いているのが、令和6年度学校経営方針（案）「生徒一人一人の能力や個性を伸ばす教育の推進」における「生徒一人一人」によく表れている。ステップアップルーム設置に見る、個別最適な学習に向けた環境整備等から、生徒の居場所作り100%・つながり100%に向けて、校長と職員が一丸となって推進しているのがとても評価できる。旧来の、生徒全員を登校させ、学校で一斉に授業することに重きをおくのではなく、生徒や保護者の様々なニーズに応えながら、不登校生徒への手立てを講じる等「一人一人」を大切にすることで、誰にとっても「学校」が居心地のよい場所になるのだろう。
- ・最近では、タブレット等の電子機器の有用性だけでなく、紙媒体の価値が見直され始めている。どちらかに偏るのではなく、どちらも有効に活用してほしい。

記録 三尻中主幹教諭：松浦達也